

木村マサ子

北海道アウトドアガイド
さむら まさこ



Masako Kimura



要塞を造るために 頂上が削られた山だって 誰も言えなかった。

函館山と砲台跡

**戦時に生まれた者として
語り継ぎたいことがある**

一日をのんびり過ごす日はない。じっとしているのが苦手で、テレビもニュースしか見ない。気が急ぐように動き回るマサ子さんを見て、友人は「そんなに先を急ぐな」と心配する。

「私は函館空襲があった7月14日生まれなの。空襲警報を聞きながら、母は屋根裏で私をひとりで産んだの。だから、私が語り継がないでどうする。自分が生きているうちに、なんとしてでも調べたかった」マサ子さんが函館要塞を無視できない最大の理由である。

産声を上げた住吉町は、函館山麓の浜辺にある。子どもの頃から海が庭であり、山が遊び場だった。自然観察指導員として函館山が職場になったとき、幼い記憶が噴き出した。北洋漁業に出ていた父は、船内で配られた酒をミカンの缶詰に交換して持ち帰り、子どもたちを喜ばせて。その缶詰を要塞に座って食べたことが忘れられない。亡くなった祖母は、台風が来ると仏壇や神棚を背負って山の中の兵舎跡へ逃げ込んだ。

戦争から帰ってきた叔父は、小学に上がったマサ子さんをよく山へ